

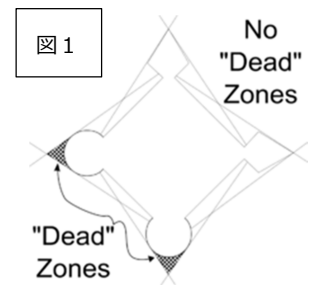
はじめに

「フランス城郭シリーズ」の中で、函館の五稜郭のような城郭を**星形要塞**、**ヴォーバン式要塞**、又は**陵堡式要塞**などと表現してきたが、歴史的事実を整理しておく。また築城技術は武器の技術の進歩と併せて考慮するのは勿論、戦場を西欧に限定せず、ヴェネツィア共和国の領土だった南欧のクロアチアや東方のトルコ民族の**オスマン帝国**など、東欧やイスラム教圏まで広げ、西欧の土地貴族中心の国家間だけでなく、**ヴェネツィア**や**ドゥブロブニク**のような**海上貿易専門国家**の防衛の実態も調べてみたい。

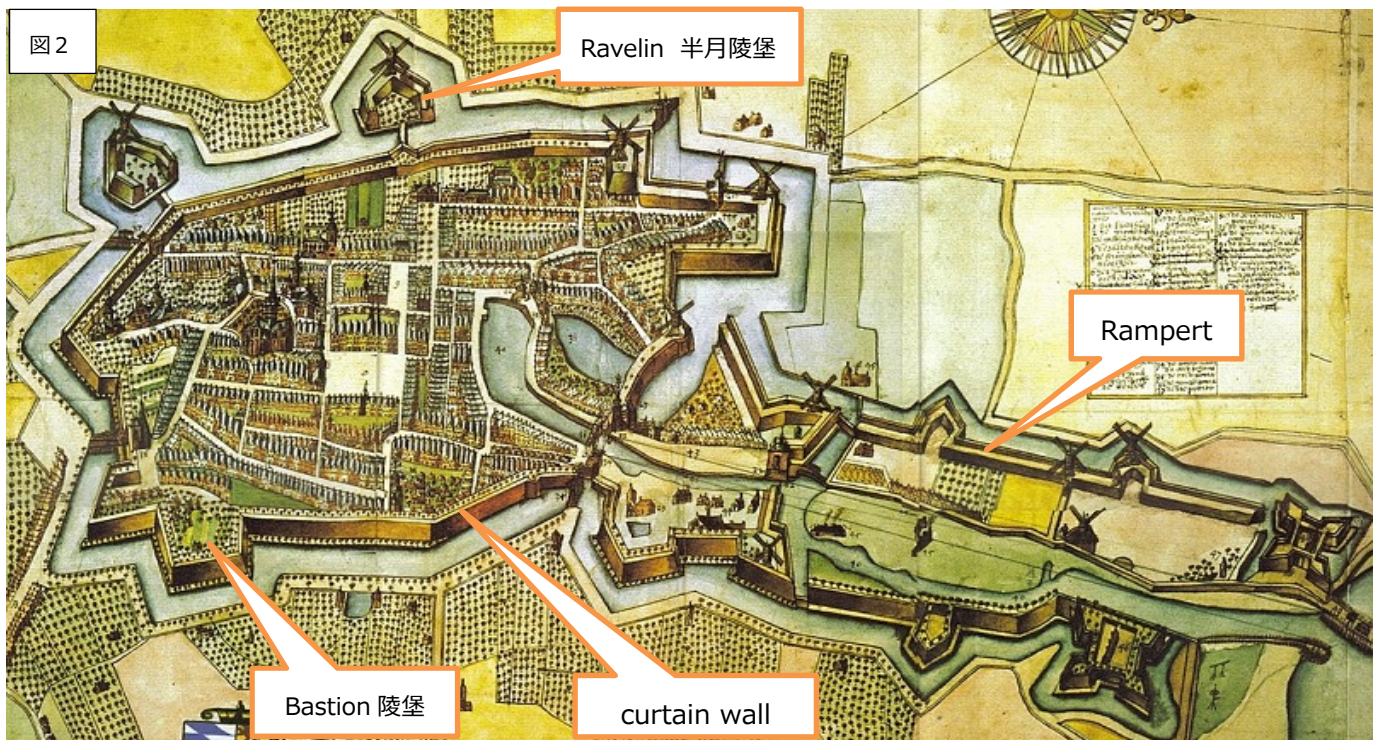
表題は「陵堡式要塞」に限定し、フランスに限定せず筆者が訪問した事がある地域に限定した。築城技術用語の定義などは筆者の勉強を目的に挑戦してみる。KPCの投稿サイトが必ずしも相応しいとも思わないが、土佐高校 OB で日本城郭協会の大先輩や会員が多くいて、気軽にご教示戴ける事もあり、しばらく継続する。

1. 城郭一般

① **図1**は、一般的な要塞の平面図で、隅が丸い**塔**の場合は銃撃戦で敵が黒く塗った丸い塔の陰にいると城内から反撃できない、即ち**デッドゾーン**になる。**三角に尖った陵堡 Bastion**を作ると、デッドゾーンが無くなる。これが**陵堡式要塞 Bastion Fort**である。火砲技術に優れたフランスが北イタリアに侵攻した頃からイタリアで発生した築城方式と言われている。英語の文献には**星形 Star Fort**、フランス語ではイタリア式**築城術 Trace Italienne**、日本では**ヴォーバン Vauban** 様式という名で分類されることもある。



② **図2**は、Web で見つけたが出典が不明。**Ravelin** ラヴリンは城壁から外部に向けて張り出した**馬出し**に似た形で、堀より外側に建設され、凸角をなす2正面から構成される。別名はデミルーン（仏語 **demi-lune**: **半月**) でフランスで使われる。元々のルネット (要塞 lunette)から発達したことを示唆した名称である。大砲を設置する目的だったと思われる。中国で火薬が発明され、車輪式の移動型大砲も実用化されて、モンゴル軍などを經由してヨーロッパ各地で実用化されたが、戦場では使いにくく、**城壁破壊をする目的**に限られた。図2も城外から城壁を破壊する目的で大砲が向けられる事を想定した迎撃用砲台と思われる。左半分と右半分の城壁の一部は壁の上部が通路になっており、**rampert**(塁)、通路が無い壁は**curtain wall** (カーテン・ウォール) と呼ばれている。



2. 図 3 は、現在のトルコ最大の都市**イスタンブル**の旧市街地図。英語版の城郭に関するサイトによると、星形要塞の最古のものは、イスタンブルの「**イエディクレ要塞**」となっており、ここから始める。

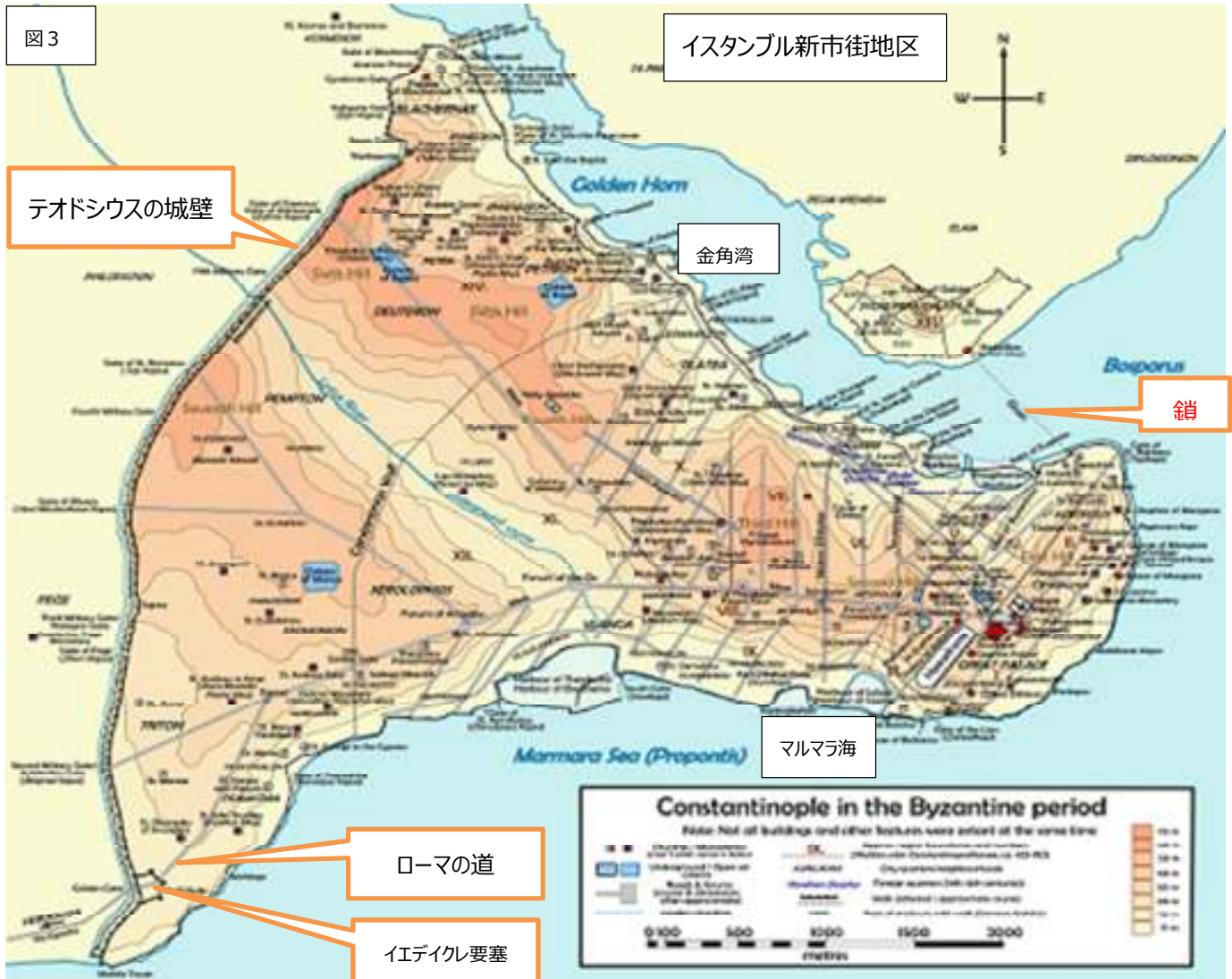


図 4 は、図 3 の「イエディクレ要塞」の部分の拡大である。

図 3 のイスタンブルの旧市街は、395 年にローマ帝国が東西に分裂した後の東ローマ帝国の首都。西側の西ローマ帝国は、476 年に消滅した。東ローマ帝国は、ビザンツ帝国として約 1000 年存続し、コンスタンチノープルはビザンツ帝国の首都であった。

3. イエディクレの要塞 Yedikule Fortress (現トルコ・イスタンブル)

イスタンブルのテオドシウスの城壁に、オスマンの**スルタン・メフメト II 世**が建設したイエディクレの要塞が、**最古の星形要塞**と言われている。星形であるが城壁周辺で兵士同士が銃撃戦をしなかった時代で三角の陵堡がない。**Yedikule Fortress** は、七つの塔の要塞という意味である。**メフメト 2 世**は、1453 年に**コンスタンチノープル**と呼ばれていた都市の城壁をハンガリー人技術者製（工場は現・エディルネ）の大砲で破壊して征服し、都市の名前を**イスタンブル**と変えた。城壁の南端のマルマラ海に近い部分に、ローマの道 Roman Road が市内に入る正門 Golden Gate があった。

そこに**凱旋門**があって 4 本の塔があった。これに 3 本の塔と城壁を追加して、7 つの塔の要塞に仕上げた。ビザンツ帝国時代の城壁と凱旋門はローマ皇帝テオドシウス 1 世と II 世が建設したものであった。 出典：図 5, 8, 9 は、筆者撮影。

図 5



図 6

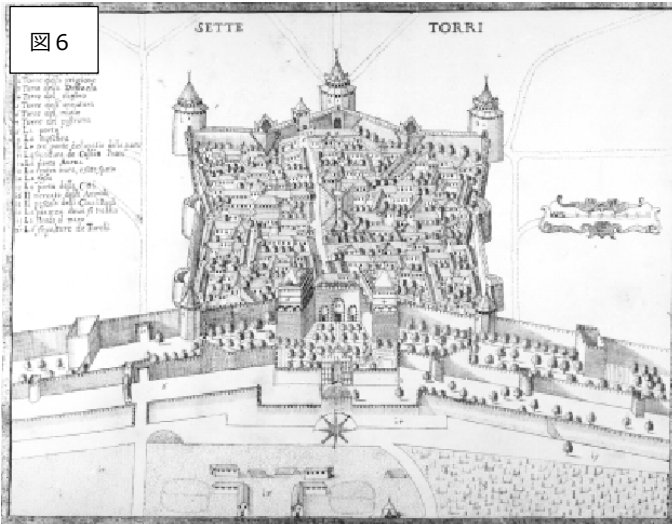


図 7



図 8



トルコ軍がテオドシウスの城壁を破壊した大砲で、砲身長さ 8.2m あり、270 kg の砲弾を 1.6km 遠くへ撃てる。現在、イスタンブルの軍事博物館に展示、筆者撮影

図 9



塔内部は敵の大將などの牢獄、宝物庫などに使用された

4. 大砲の話

- ◇ トルコ軍がコンスタンチノープルを攻撃した 1453 年は百年戦争が終結した年である。百年戦争では巨大な大砲は実用化されていなかったが、1470 年頃に描かれたフランドルの攻城戦の絵画に、一回り小さいが車輪の付いた運搬機に載せられた着脱式の砲尾薬室をもつ、大きな元込め砲や、砲身が二つあるものもあり、百年戦争末期には運用されていた事は確実である。11 ページに〈参考〉として、1453 年のオルレアン包囲戦で大砲が使われた事を紹介する。
- ◇ トルコで使われた巨大な大砲は、ハンガリー人（一説にはドイツ人も）の Orban(又は Urban)が開発し、キリスト教徒のビザンツ側に売りたかったが、資金が不足しており、トルコに売ったという。

- ◇ 砲撃は4月1日から5月29日まで2か月かかっている。（城壁の鍵をかけ忘れた噂の記録は見当たらない。）
- ◇ 軍事博物館では**世界初の軍楽隊**によるパレードの実演をやり、大スクリーンに大音響と共に砲撃シーンを映し出している。トルコは、NATO に加盟しており、展示品は、近代の戦闘機まで含んでいる。

出典 [The Ottoman Attack and the Siege of Constantinople in 1453 \(thegreatcoursesdaily.com\)](http://thegreatcoursesdaily.com)



図 10

5. テオドシウスの城壁の破壊箇所訪問



図 11



図 12

図 11 は、約 9 km の城壁の内側で、トルコ軍が大砲で破壊した箇所の近辺である。ここを訪問するには、公共交通は無く、ホテルで手配するハイヤーしかない。

廃墟にホームレスが沢山住んでいて、日本人だけで歩くのは危険。ハンガリーなど、東欧は同じだが、街の中にロマ（ジプシー）が住みついている。図 12 は、運転手にトルコ軍が大砲で攻撃する絵を見せて案内してもらった。言葉は通じない。

6. ヴェネツィア共和国領の城郭

① 15世紀から16世紀にかけてのヴェネツィア共和国の領域。

濃赤は15世紀初頭までの領土、赤は16世紀初頭までの領土、ピンクは一時的に領有していた土地を示す。黄色い領域は制海権を持っていた海域、オレンジの線は主要な商業航路、紫の四角は商業拠点があった場所を示す

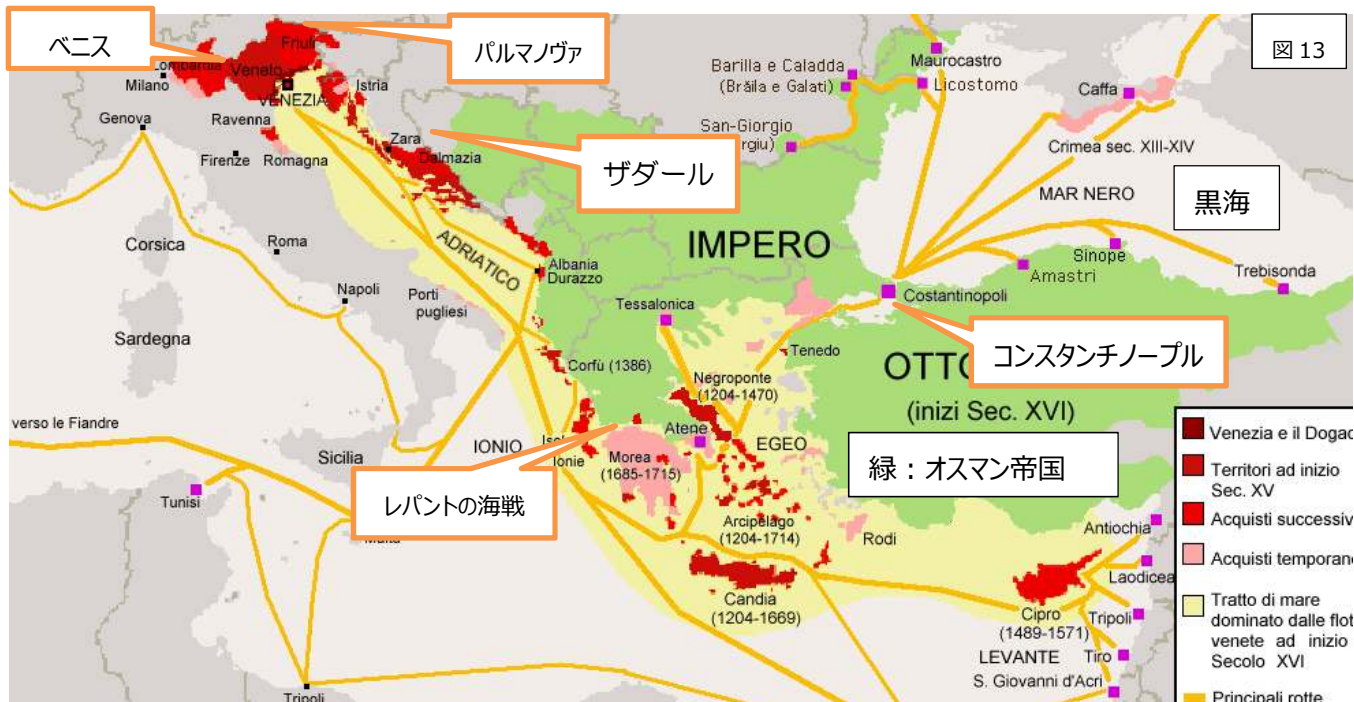


図 13



図 14



図 15

サンタ・マウラ島の要塞、小泉八雲の母の出身地
ギリシア語では Lefkada レファガ島

図 14、15 の出典は、塩野七生の「海の都の物語」で、地名はイタリア語である。要塞の例で引用する所は現在はクロアチアであり、ザーラ Raza はザダル Zadar, スパーラト Spalato はスプリト Split、ラゲーサはドゥブロブニクである。

② サンタ・マウラ島 (ギリシア語では Lefkada レフカダ島)

19世紀にギリシアに所属したが、歴史的には、オスマン、ヴェネツィア、オスマン、ヴェネツィア、フランスなど国が何度も変わっており、図15の要塞は「海の都の物語」ではレパントの海戦前の記述に挿入されており、トルコの設計かも知れない。そういえば**イエディクレの要塞**にどこか似ているようにも思える。下に引用した写真はWebの現在の遺跡であり、設計は不明である。図14とは、要塞の場所も移動しており、設計も変わっている筈である。



図 16



図 17

余談 小泉八雲の母親はギリシア人で、この島（ギリシア語で Lefkada レフカダ島）の人だが、ギリシアがオスマン領から独立する戦争支援していたイギリス軍の兵士（アイルランド人）が戦地妻としてギリシア正教の教会で結婚した。生まれた子供に、島の名前 Lefkada を使って**ラフカディオ**と付けた。ギリシアのトルコからの独立は**1830年**である。一家でアイルランドに帰ったが、11世紀にローマ・カトリック教会と決別したギリシア正教会を、殆どがローマ・カトリック教会のアイルランド人は嫌って母をギリシアに帰し、父は再婚した。ラフカディオは伯母の世話になって、イギリスの大学を出てアメリカでジャーナリストになって、日本に渡り幕末の激変のニュースを英語圏に紹介したことで有名になっている。日本では、「日本の民話を英語で世界に紹介した」と評価されているが、実態は違う。

筆者を含めた多くの日本人が初めてアイルランドへ行くと、「知っている事は、**小泉八雲とダニーボーイ**」だけだが、アイルランド人にはラフカディオという名前は無く、誰も知らない。東京のアイルランド大使館に、「小泉八雲記念館を作ってくれ」という要望があったが、曾孫の小泉凡氏は、2014年に小泉八雲没後110周年記念事業として、生誕地レフカダ島の役場の中に記念館を作り、自ら出席して Historical Center of Lafcadio Hearn と命名した。**小泉凡**氏は日本の民俗学者。島根県立大学短期大学部総合文化学科教授・小泉八雲記念館顧問、焼津小泉八雲記念館名誉館長

出典：2014年6月6日 Japan Times

③ パルマノーヴァ Città di Palmanova

1593年10月7日、ヴェネツィア共和国のはドージ（総督）は、レパントの海戦（1571年10月7日）で主にスペインとジェノヴァなどイタリア諸都市から成るキリスト教連合軍がオスマン帝国に勝利した記念にヴェネツィア東方にヴェネツィアの建築家ヴィンチェンツォ・スカモッツィの設計で東方国境線を防



備するため、計画的に築かれた星形要塞である。ヴェネツィア共和国の軍事拠点として造られたもので、星型の堀に囲まれており、9つの砲台が置かれた。ルネサンスの理想都市の実践例としても知られる。

筆者は、更に東のトリエステに行き、早朝に近くの城跡で散歩したが、どんな形状だったか記憶がない。

① ドブロボニク



図 18



図 18、の写真は西内氏提供。20 年ほど前にセルビア海軍がドブロボニクを艦砲射撃したが、このような位置から撃ったのかな～？ 図 19 も西内氏提供 筆者は高齢女性を連れていて、山に登らなかったが、西内さんはのぼったのですね～？

図 19





筆者@ボカール要塞

Ravelin 半月陵堡で砲台だったと思う

1667年の大地震で破壊する以前の絵画 出典：現地の絵八ガキ

7. 神聖ローマ帝国 300以上の公国や司教座などの集合体で、首都は無く、皇帝は7人の選帝侯によって選ばれ、その皇帝が住んでいる所が首都のようなもの。トルコ軍がドナウ川を北上しハンガリー、オーストリア、スロバキアを襲ったが、陵堡要塞がある①ウィーン、と②チェコのプラハを取り上げる。ブラチスラヴァとハンガリーのブダ城周辺は簡単に説明する。

① ウィーン 独：Wien、英：Vienna（オーストリア）共和国の首都

1977年、羽田空港国際便の最後の年に、生まれて初めてのヨーロッパ訪問がウィーンだった。オーストリアは中立国で5日滞在した。初冬で天気が悪く、社会主義国に近い香りがする映画「第三の男」の白黒の街だったが、泊まった宿がホテル・プリンツ・オイゲンで、トルコ軍が1683年に来襲してきた時に撃退したオイゲン公の名前だった。市の中心部を囲むリンクと称する広い環状道路が印象的だったが、そこが要塞都市ウィーンの城壁跡であることは2~3回目の訪問で知った。それが陵堡式要塞だった事と、その外側にも城壁があった事は今年になって知った。2013年ホテルは未だあった。

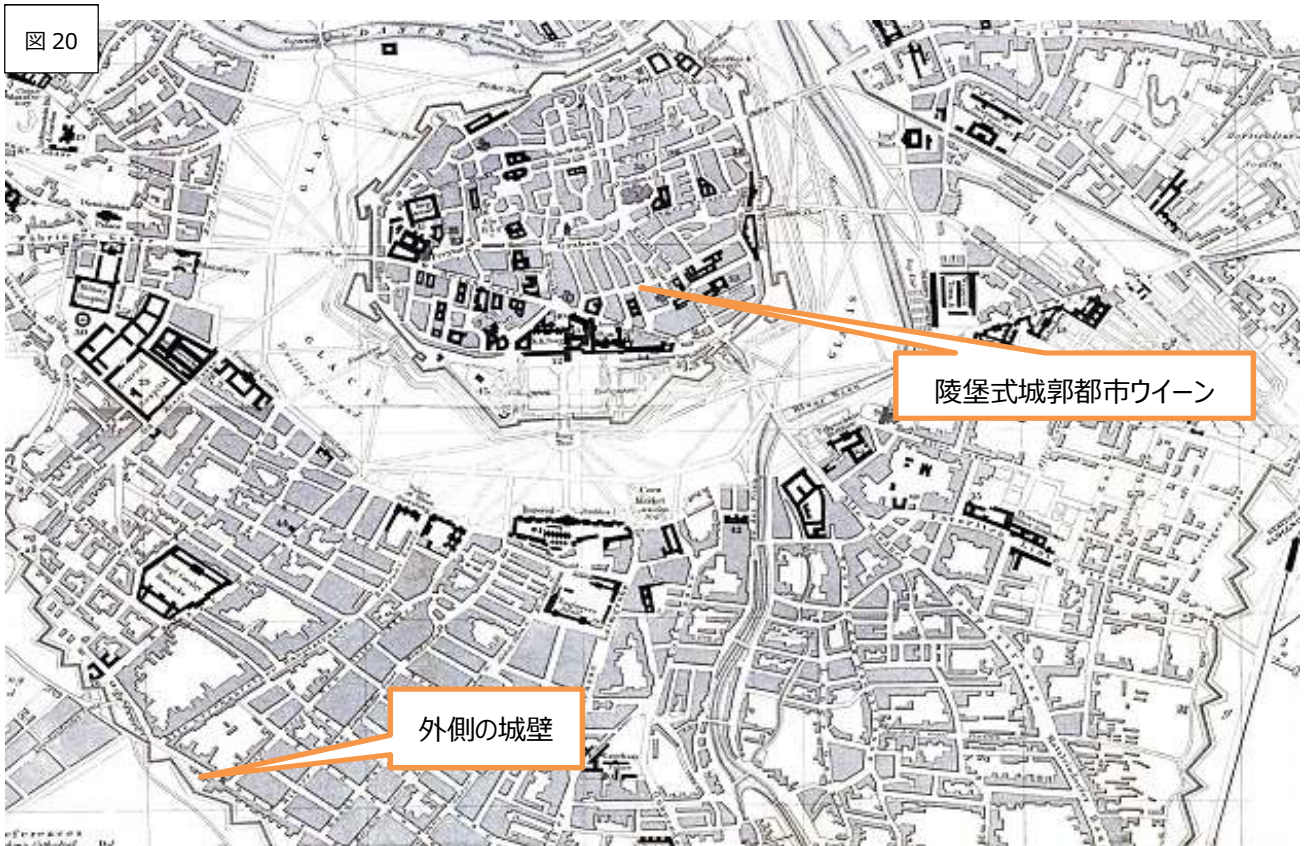


図 20

図 21 は、1683 年当時のウィーンの鳥観図、中央の尖塔がある教会がザント・シュテファン、陵堡式要塞都市である。



図 21



ウィーンに侵攻するトルコ軍に銃で反撃し勝利した
左図はオイゲン公のベルベデーレ宮殿、今は美術館

② プラハ城 (チェコ共和国)

戦災に会わなかったので中世の街並みが残っている。紙面の都合で現在の地図を上下二枚に分けて紹介する。

図 22 上

城正面広場 **オバマ大統領**が就任
後初めてヨーロッパで演説をした所

プラハ城



図 22 下



城と言っても、社会主義時代があり、建築以外に封建的な面影はない。現在は**大統領府**と中央官庁が使っている。カトリック時代の教会があるが、14 世紀の宗教改革の**フス派**の拠点であり、城内の教会に所属するカトリック信者は約 30 人との事で、教会内の片隅で細々と礼拝を行っていた。プラハ市内の歴史的観光地は中世のままであり、写真の右側を上下（南北）に流れる**ブルタバ川**（独：モルダウ）の右側にあり、映画**アマテウス**（モーツアルト）のロケはそこで行われた。右のお爺さんは、**オバマ大統領**が演説をした**プラハ城正面広場**にて。



③ **ブラチスラバ城** スロヴァキア共和国



12 世紀から城があったが、17 世紀にオスマン帝国の侵攻に備えて 4 つの塔を付け加えて強化したが、陵堡式ではない。18 世紀にはハプスブルク家女帝マリア・テレジアの居城だった。19 世紀に火災で焼失し、第二次大戦後に復旧した。2013 年、訪問時に、秋篠宮ご夫妻が訪問中だった。

写真出典：③ 筆者、④ Wikipedia

④ **ツィタデッラ要塞** Gellért Hill citadel



ハンガリーの首都ブダペストのブダ地区のゲッレールト山の頂上にある城塞。語源はイタリア語のチッタデッラ (cittadella)。ハプスブルク家がブダペストを監視するためにハンガリー人に強制労働させて建設した。第二次大戦ではドイツ軍が占領し、ブダペストを砲撃した。城壁は撤去されたが陵堡式だったと思う（筆者）

<参考> 第4項で述べた（英仏）百年戦争で英軍が大砲を使用した例を紹介する。

オルレアン包囲戦(1428年10月～29年5月)

フランス兵士が百年戦争年代記を書いた時のオルレアン包囲戦。城壁都市オルレアンを英軍が大砲を使って破壊する様子が描かれている。出典：Wikipedia

その他の武器は弓矢と長槍などで、小銃は見えない。フランス軍の反撃の様子は分からない。やがて、ジャンヌ・ダルクが王太子シャルルを連れて、フランス軍兵士を鼓舞して勝利し、ランスの大聖堂へ戴冠式の為に向かう。（実際は謎が多い）



<年表> 15世紀～19世紀の城郭と武器に関する年表

1428	(～29)「オルレアン包囲戦」英軍は 大砲 を使ってオルレアンの城壁を破壊したが、ジャンヌ・ダルクが現れて敗戦
1453	(英仏)百年戦争終結、オスマン軍ビザンツの首都コンスタンチノープルを征服
1494	イタリア戦争 始まる 仏王シャルル八世、ナポリ王の継承権を要求してイタリアに侵入 ミラノ公爵ルドヴィーコ・マリーア・スフォルツァは レオナルド・ダ・ヴィンチ など芸術家を招き城内を装飾した
1519	仏王フランソワ1世、スイスに勝利し ミラノ を回復
1522	ヴェネツィア 、オスマン帝国にロドス島を失う
1526	フランソワ1世、神聖ローマ皇帝に敗れ ミラノ・ナポリ を放棄
1529	オスマン軍第1次ウイーン包囲 10万の軍で勝利できず
1543	鉄砲伝来@種子島
1571	レパントの海戦 ヴェネツィア、スペイン、ローマ教皇などの神聖同盟がトルコに勝利する。
1575	長篠の戦い 、初の鉄砲隊
1593	ヴェネツィア共和国によって Palmanova 後期ルネサンス様式の パルマノヴァ要塞 が建設された。
?	ミラノ・スフォルツァ城 六陵堡式要塞 →17世紀中ごろと推定、誰が、いつ建設したか文献が無い
1633	ヴォーバン生まれる (ヴォーバンは1633年に生まれ、ルイ14世は1638年に生まれ)、ヴォーバンが4歳上
1643	ルイ13世 没、 ルイ14世 即位 (b1638-a1643@-1661 親政開始-d1715)
1644	ヴェネツィア 、オスマン帝国にクレタ島を失う
1667	(Lille に要塞) ルイ14世、ヴォーバン34歳に命じてリール Lille に要塞を建設。1670年完成。
1668	(Arras に要塞) ルイ14世、ヴォーバン35歳に、Arrasに5陵堡を持つ要塞建設を命じた。1678年完成。 (ブザンソンの要塞) ルイ14世、ヴォーバンにスペイン領時代の要塞を改修させた。1771年完成。
1678	(ル・ケスノイ に要塞) ルイ14世、ヴォーバンに命じてル・ケスノイの5陵堡の城を8陵堡に強化改修させた。
1682	宮廷を ヴェルサイユ宮殿 に移転し、太陽王ルイ14世による絶対王政を完成した
1683	ウイーンは陵堡式要塞都市
1715	ルイ14世没、15世が5歳で即位し、オルレアン公フィリップIIが8年間摂政
1723	オルレアン公フィリップII没、ルイ15世 (b1710-a1723-d1774) 親政開始
1774	ルイ15世没、ルイ16世 (b1754-a1774-1792-e1793) 即位
1784	～91、パリに 徴税請負人の市壁 建設
1789	7月バスチーユ要塞襲撃、農民一揆全国に拡大、ヴェルサイユ行進、国王一家をパリに連行、(フランス革命)
1806	ヴェネツィアは、ミラノを首都とする ナポレオンのイタリア王国 に併合される。
1841	パリに最後の市壁、 テイエールの市壁 の建設を開始 (～45)

以上